

第2章 宇部市土地区画整理事業（柳ヶ瀬丸河内線）に伴う発掘調査

1 調査の経過

宇部市土地区画整理事業に伴い医学部構内に道路建設が計画されたことを受けて、埋蔵文化財調査を行うため、平成10年度に宇部市教育長を団長とする宇部市域遺跡発掘調査団が結成された。同調査団には資料館員の村田・田畑・金子が調査員として加わり、宇部市教育委員会と山口大学埋蔵文化財資料館が合同で発掘調査¹⁾を実施した。今回の調査は平成10年度に引き続き柳ヶ瀬丸河内線道路建設に伴うもので、同調査団が発掘調査を実施した。調査区名は平成10年度からの連番とし、建設予定道路の北辺にあたるテニスコートにGトレンチ、学友会館南側の駐車場にHトレンチを設定した。調査期間は平成11年5月26日～9月13日で、調査面積はGトレンチ818㎡、Hトレンチ71.9㎡、合計818.9㎡である。調査区の座標値は世界測地系（平面直角座標系第Ⅲ系）で示した。

2 層序・遺構

(1) Gトレンチ (Fig. 5～10, PL. 2～7)

層序は、第1層：表土・造成土（層厚72～112cm）、第2層：水田耕土（層厚10～21cm）、第3層：水田床土Ⅰ（暗黄灰褐色土・暗茶灰黄褐色土・暗灰黄色粘土・暗灰黄色粘土・暗茶灰黄褐色土等 層厚約2～15cm）、第4層：水田床土Ⅱ（暗灰褐色土・暗灰黄褐色土等 層厚3～17cm）、第5～7層（層厚70cm以上）：粘土・砂による堆積層である。

造成前には水田として利用されていた。用水路を境として、北西側の水田面（第2層上面）が南東側の水田より約20cm高い。水田床土はⅠ・Ⅱに大別できる。第5～7層は水田化以前の堆積層である。第5層はFig. 5のA地点付近で現地地表下1.05m、標高1.48m、同F地点付近では現地地表下1.23m、標高1.33mで検出した。平成10年度の調

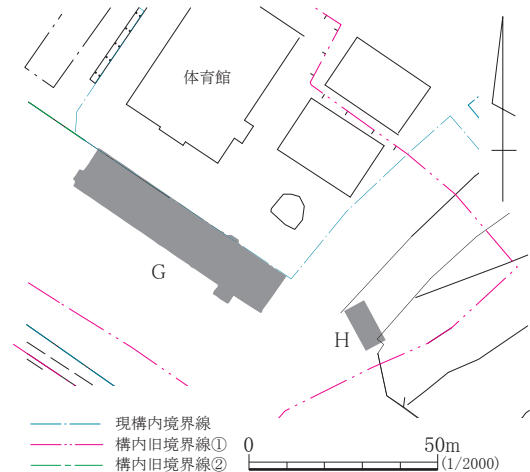


Fig.4 調査区位置図

査では水田化以前の二次堆積層から弥生時代終末～古墳時代前期の土器を中心とする土器片が多数出土したが、今回は認められなかった。

遺構は主に造成前の水田耕作に伴うものである。以下、混乱を避けるため、遺構名は調査時のものを使用する。

用水路（Fig. 5, PL. 5・6（1））

造成直前まで使用されており、第1層の直下、第2・3層で検出した。土層観察箇所を除き中央部付近のみ底面まで掘削した。流路方向は東－西方向で、検出面での幅は約1.95～2.4m、延長約13.6m、検出面からの深さは約0.7～0.9mである。両岸には、直径約15～20cmの木杭が約0.7m間隔で打ち込まれていた。また、両岸下半部には杭の間に直径2cm程度の竹を横方向に設置し、同上半部では一部で板を設置して土留めを行っていた。底面には直径約9cm・長さ約48cmの木材を流路と直交して設置していた。土層断面（H-I断面）からは堆積と改修が繰り返されていることが分かるが、掘削時期は不明である。裏込土がみられる北側の約0.6～1.0m、南側の約1.5mは通路になっており、北側の一部では水田の区画を確認した。また、この水路の境に水田面の高さが異なることから、近世の開作時に遡る地割を反映している可能性がある。埋土から近世～現代の陶磁器、鉄製品等が出土した。

暗渠（Fig. 5・8, PL. 3（1）・PL. 5(2)）

暗渠1は第3層上面で検出した。検出面での幅は約40cmで、流路方向は南東－北西方向である。直径3～8cm程度の竹を数本束ねて直径30cm程度にして埋設していた。また、上記の竹の束に対してほぼ1.5mの間隔で直径2cm程度の竹を垂直に設置していた。暗渠2は用水路南側の通路との境界部で部分的に確認した。幅約46cm、深さ約36cmで、直径約10cmの竹を埋設していた。

土坑1（Fig. 9, PL. 6（2）・PL. 7（1）（2））

第5層上面で検出した。平面形はやや歪みがある長方形で、長辺約4.3m、短辺約2.3m、深さ約0.32mである。埋土は黄灰色の砂で、上面には第4層がブロック状に混じり、土坑2・3と共通する。土師器もしくは土師質土器片が出土した。

土坑2（Fig.10, PL. 7（3））

第5層上面で検出した。平面形は長方形で、長辺約4.2m、短辺約1.9m、深さ約0.7mである。埋土は土坑1・3と共通する。土師器もしくは土師質土器片、陶器片、磁器片が出土した。

土坑3（Fig.10, PL. 7（4））

土層断面図では第4b層を検出面とする。平面形は長方形で、長辺約3.7m、短辺約1.2m、

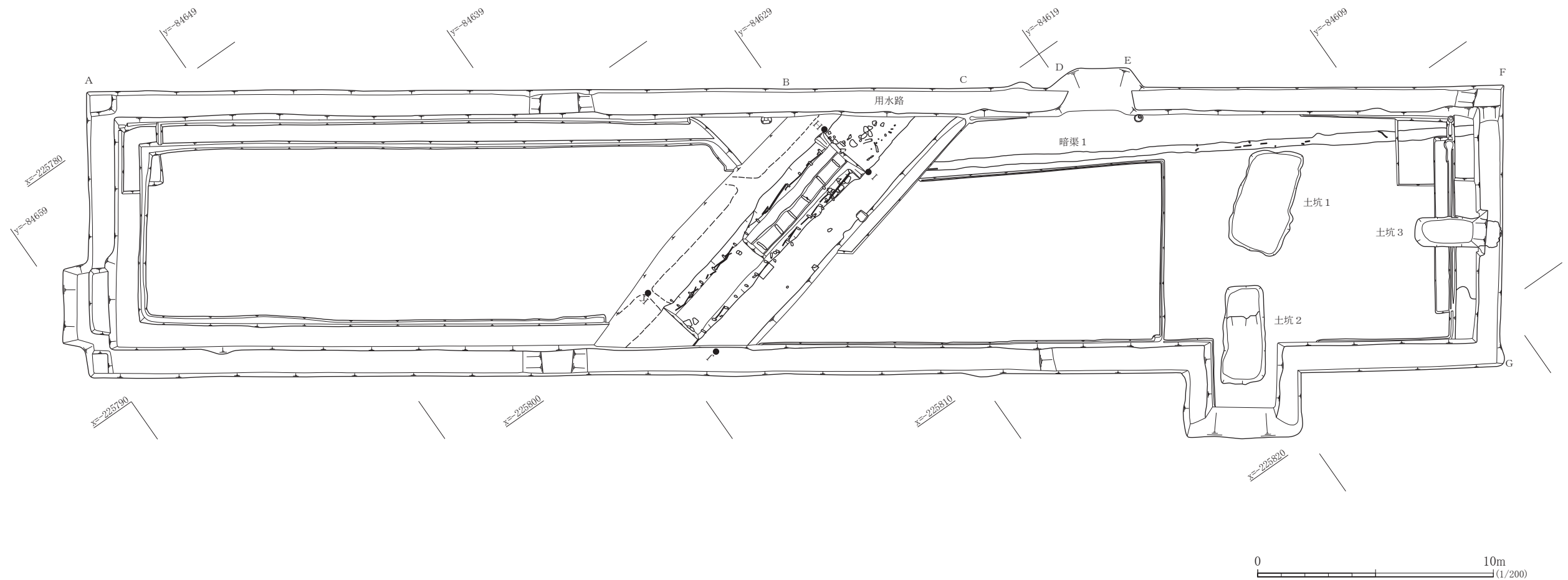


Fig.5 G トレンチ平面図

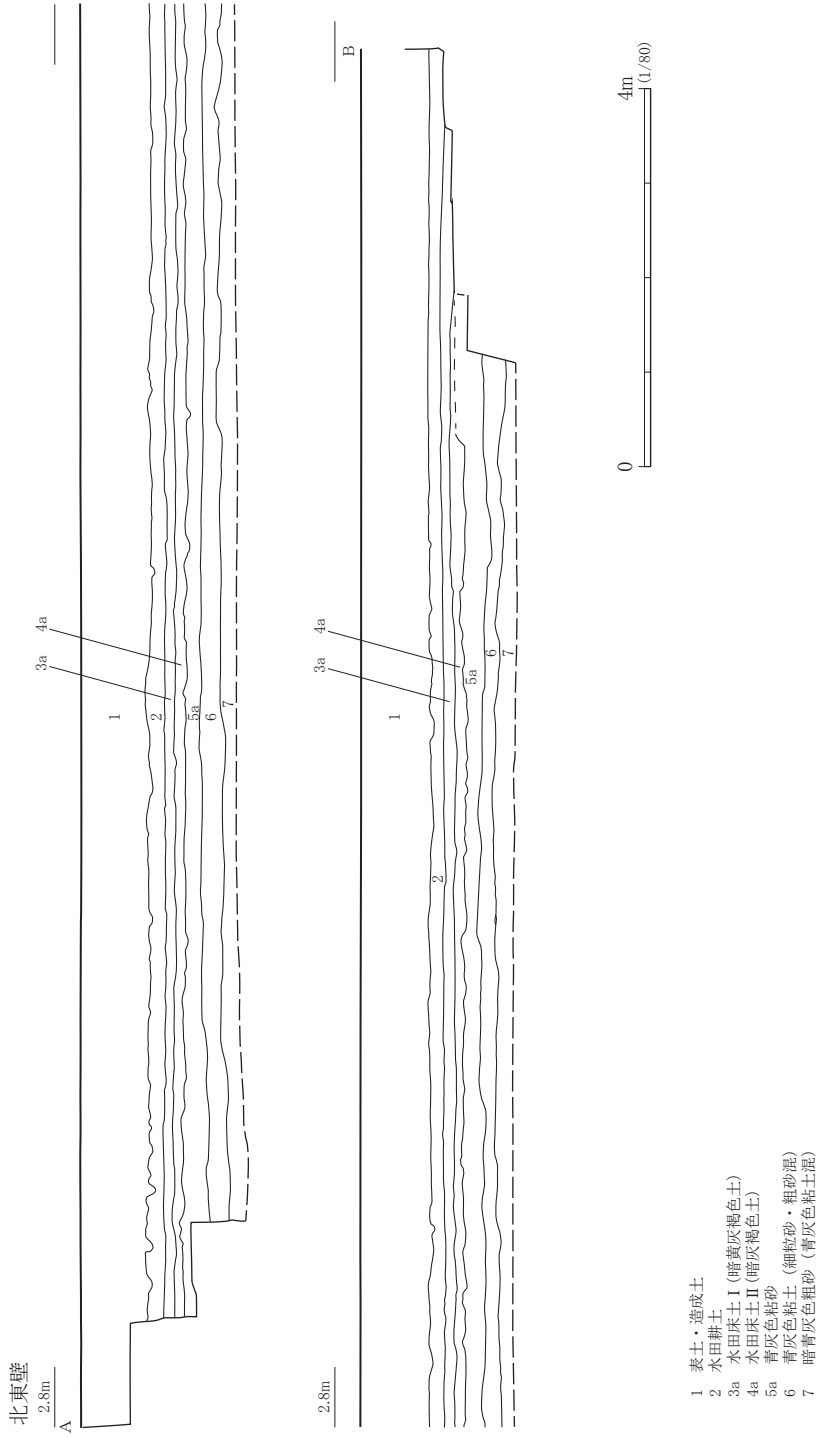


Fig.6 Gトレンチ土層断面図①

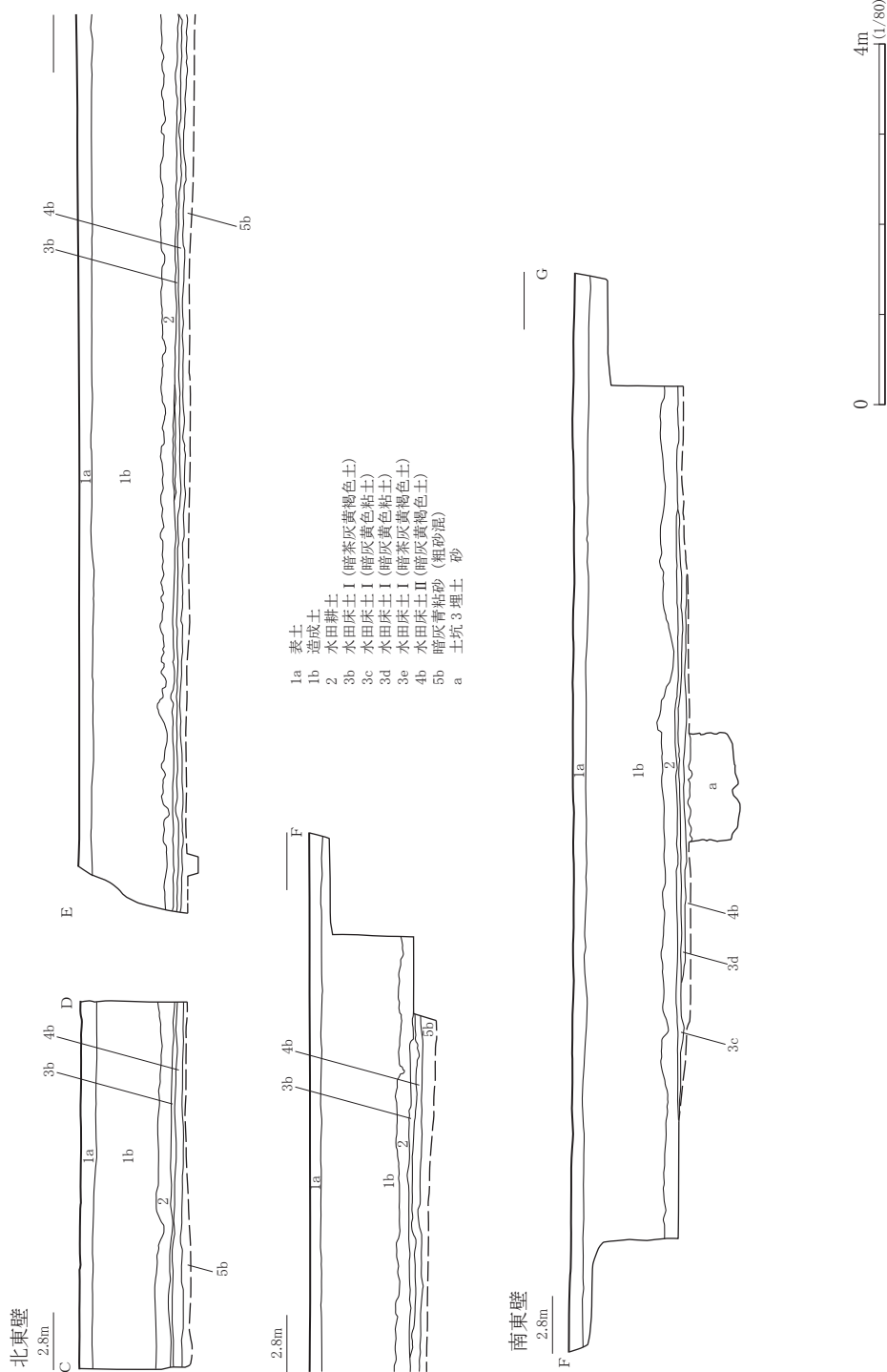


Fig.7 Gトレンチ土層断面図②

層序・遺構

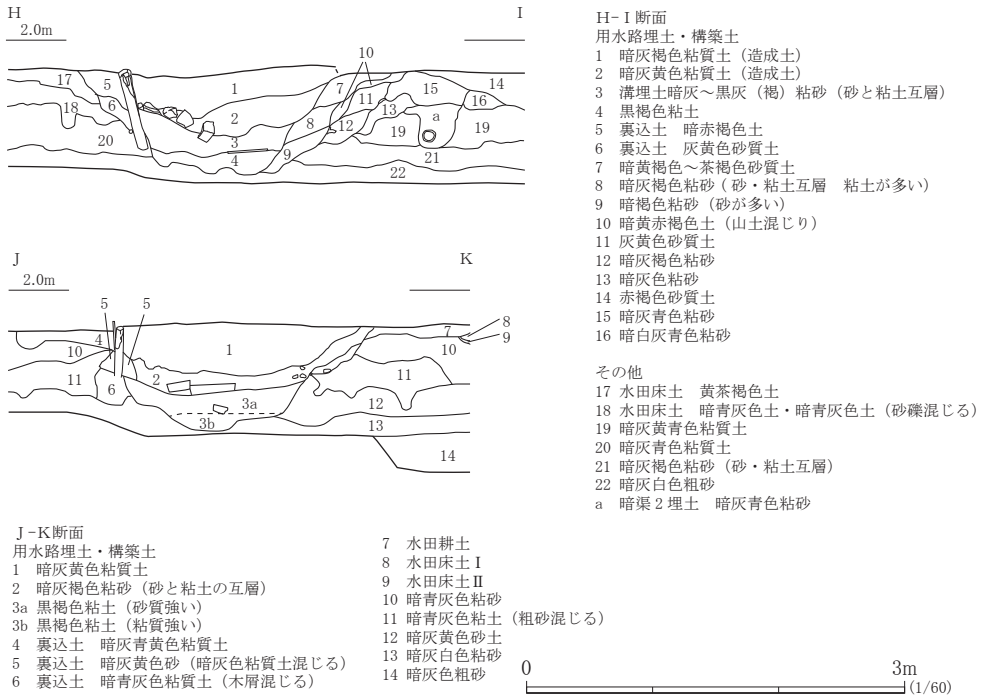


Fig.8 用水路土層断面図

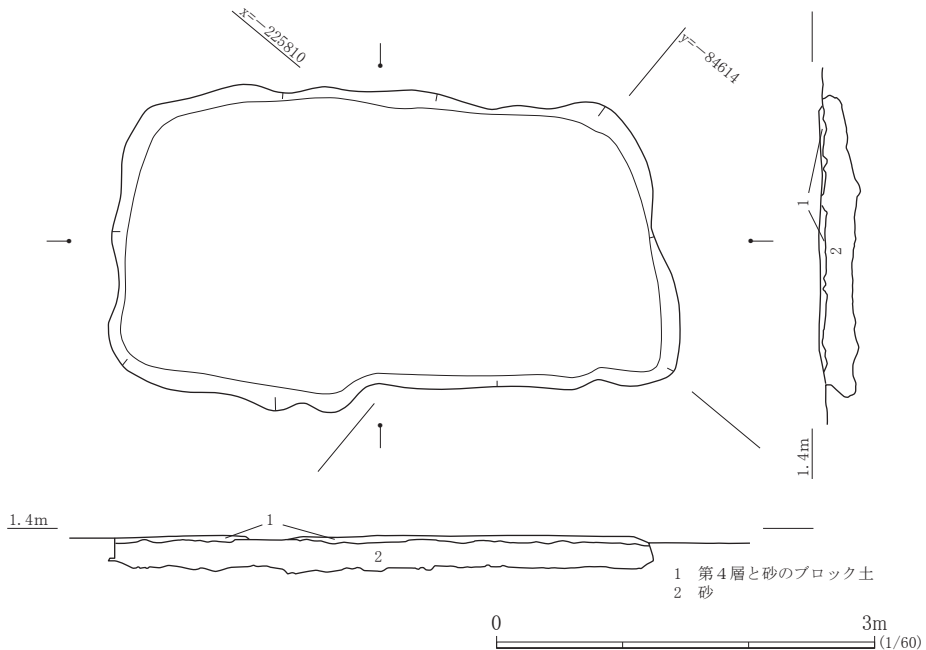


Fig.9 土坑1平面図・断面図

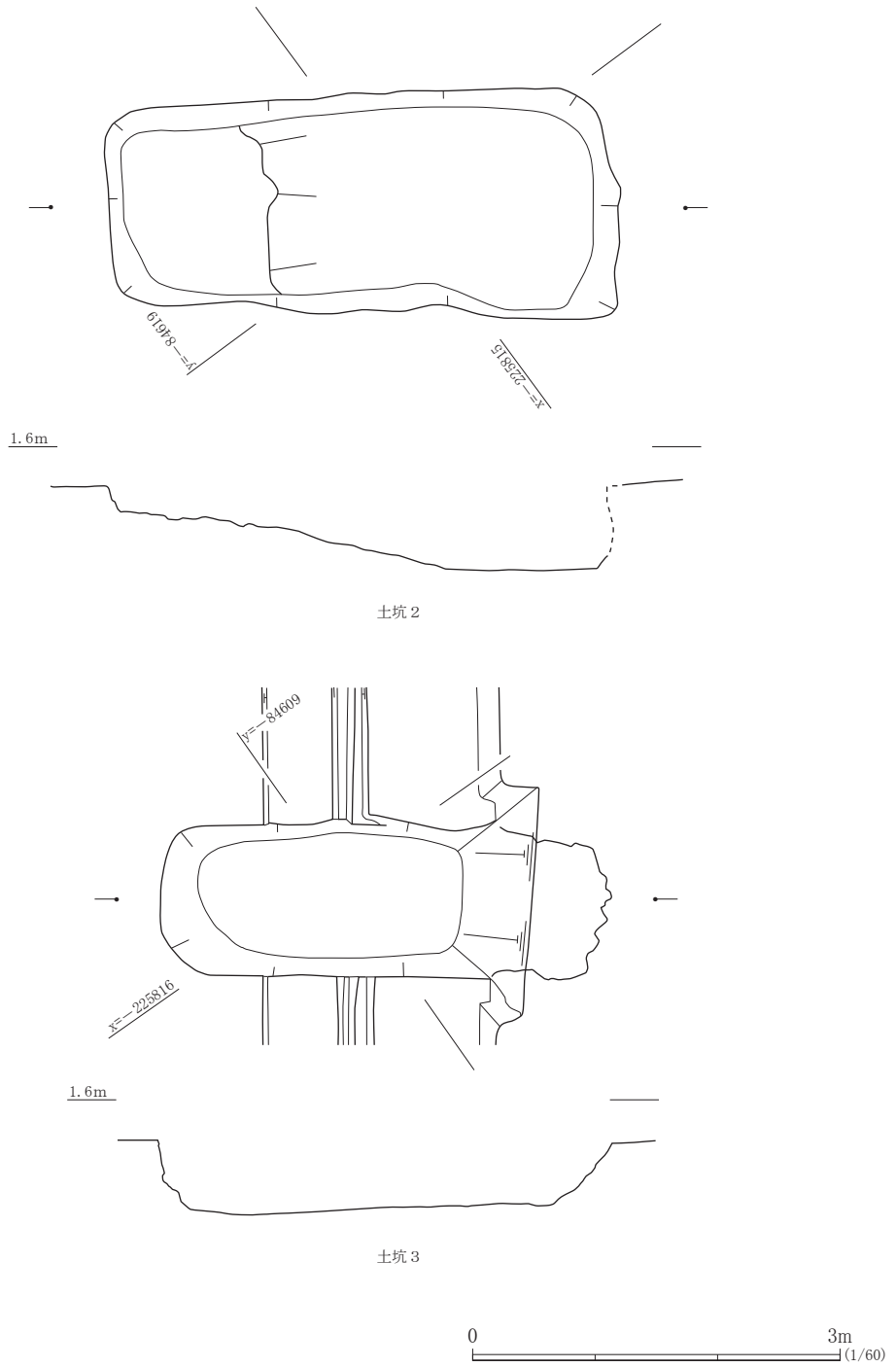


Fig.10 土坑2・3平面図・断面図

深さ約0.6mである。埋土は土坑1・2と共通する。土師器もしくは土師質土器片が出土した。なお、完掘時の平面図は作成していない。

土坑1～3は断面形は異なるが、平面規模が近似し、埋土が共通する。また、壁面には鍬の刃先の痕跡が明瞭に残っており、掘削後すぐに埋め戻されたと考えられる。以上から、土坑1～3は粘土採掘坑であり、ほぼ同時期に掘削された可能性が高い。ただし、採掘された粘土は海成粘土であることからその用途については検討の余地があろう。土坑1～3とも出土遺物は小片かつ僅少なため時期比定は困難であるが、第4層もしくは第5層を検出面としていることから、開作時を上限とする近世に遡る可能性が高い。

(2) Hトレンチ (Fig.11, PL. 8)

造成土が厚いため、調査区南端では3段の段掘りを行った。層序は、第1層：表土・造成土（層厚116～135cm）、第2層：水田耕土（層厚8～20cm）、第3～10層：水田床土（層厚25～58cm）、第11～14層（層厚33cm以上）：粘土・砂による堆積層である。なお、床土以下については原図の一部に層序の記載がないため、調査時の写真を参考に記載した。

Gトレンチの状況を参考にすると、水田床土Ⅰに第3～5層、水田床土Ⅱに第6～10層が相当すると考えられる。水田化以前の堆積層である第11層は現地地表下1.8m、標高1.0mで検出した。Gトレンチと比較すると、Fig. 5のF地点第5層よりも約0.33m低い。遺構は検出していない。

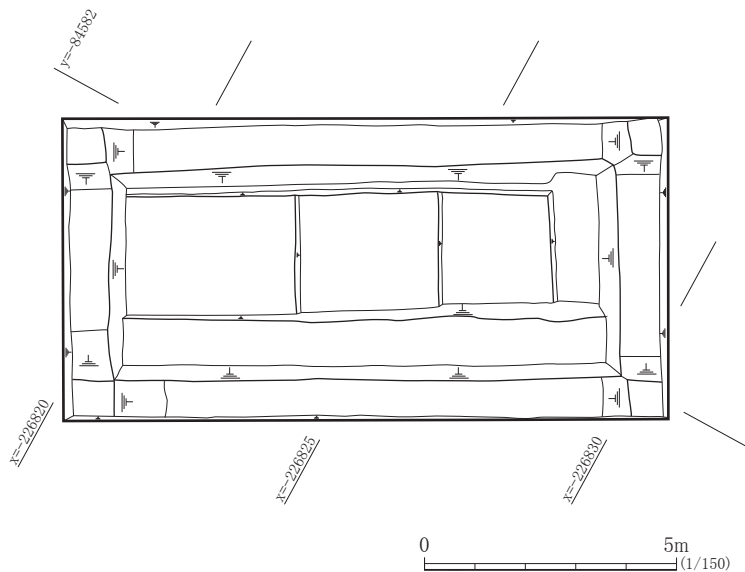


Fig.11 Hトレンチ平面図

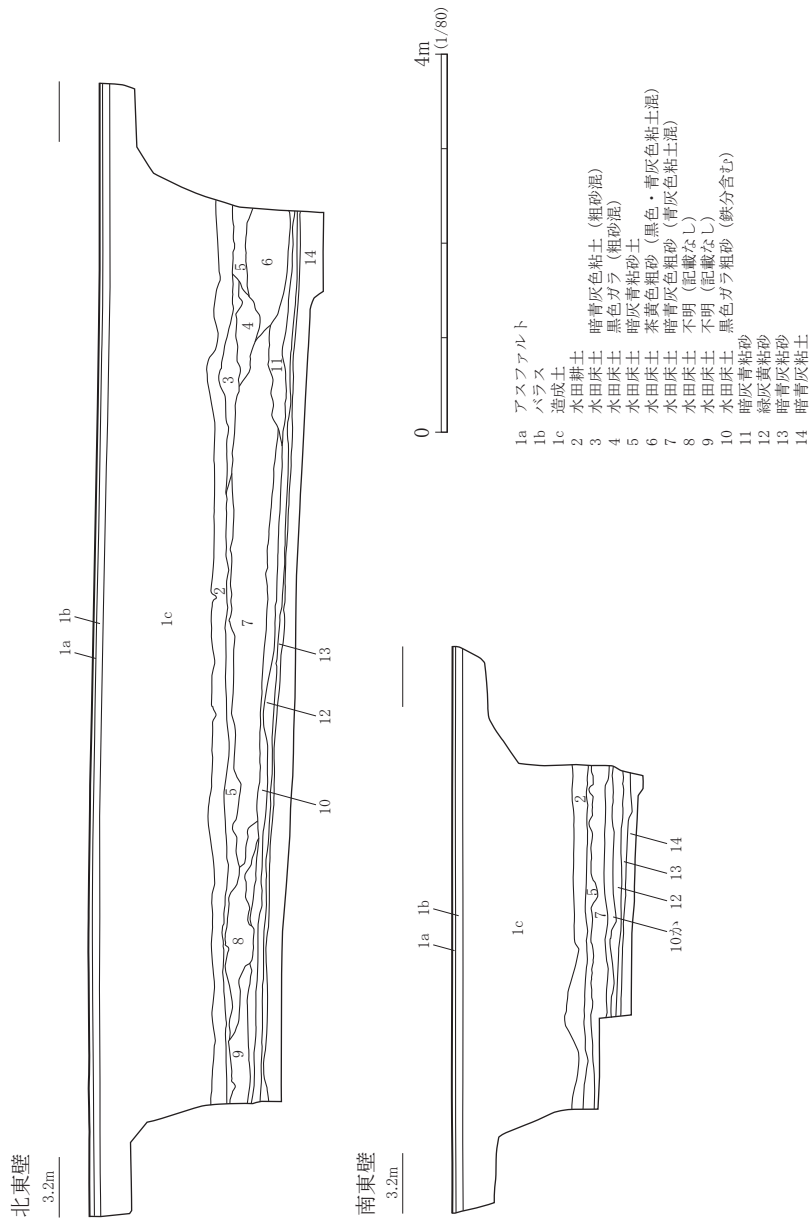


Fig.12 Hトレンチ土層断面図

3 遺物

以下で代表的な遺物を報告するが、近世以降の遺物については一部にとどめた。

(1) 土器 (Fig.13・14, PL.9～11)

1～5はGトレンチ用水路・同構築土出土土器。1は佐野焼（土師質土器）甕の口縁部。2は土瓶の注口部で外面に鉄釉を施釉する。3は肥前の広東碗底部。18世紀末～19世紀初頭。4は肥前系の染付小碗。外面に草花文を描く。18世紀後半～19世紀初頭。5は土師質土器のサナ。

6～23はGトレンチ第4層出土土器。6・7は瓦質土器足鍋の口縁～胴部。いずれも外面にはススが付着する。8は瓦質土器足鍋の脚部。9は瓦質土器播鉢。内面の卸目は6条である。10は土師質土器鉢の口縁～胴部。外面にスタンプ文を施す。11・12は土師質土器焙烙。同一個体の可能性がある口縁～胴部で、口縁部が内傾する。13・14は瓦質土器焙烙。13は口縁～底部。口縁部内面を肥厚させ、外面にススが付着する。14は口縁～胴部で口縁部が直立する。15は瓦質土器の底部。器種は不明。内外面にナデを施し、下地のハケが残る。16は土師質土器の底部。器種は不明。底面に糸切り痕がある。17は土師質土器・焼塩壺の蓋。内面に布目痕がある。18は産地不明の陶器碗。19世紀。形態は端反碗を意識し、木灰もしくは土灰釉と藁灰釉を施釉する。見込には胎土目跡が残る。19は萩焼鉢の口縁～胴部。19世紀。20は産地不明の磁器碗底部。19世紀。21は肥前系染付丸碗の口縁～胴部。外面に草花文を描く。18世紀後半～末。22は肥前系の紅皿。18世紀。23は肥前系の染付皿。型打ち成形で、外面に松葉文、内面に楼閣山水文を描く。19世紀。

24はGトレンチ第3・4層出土。瓦質土器火鉢の把手か。獣面を型成形し、横方向に1箇所穿孔する。

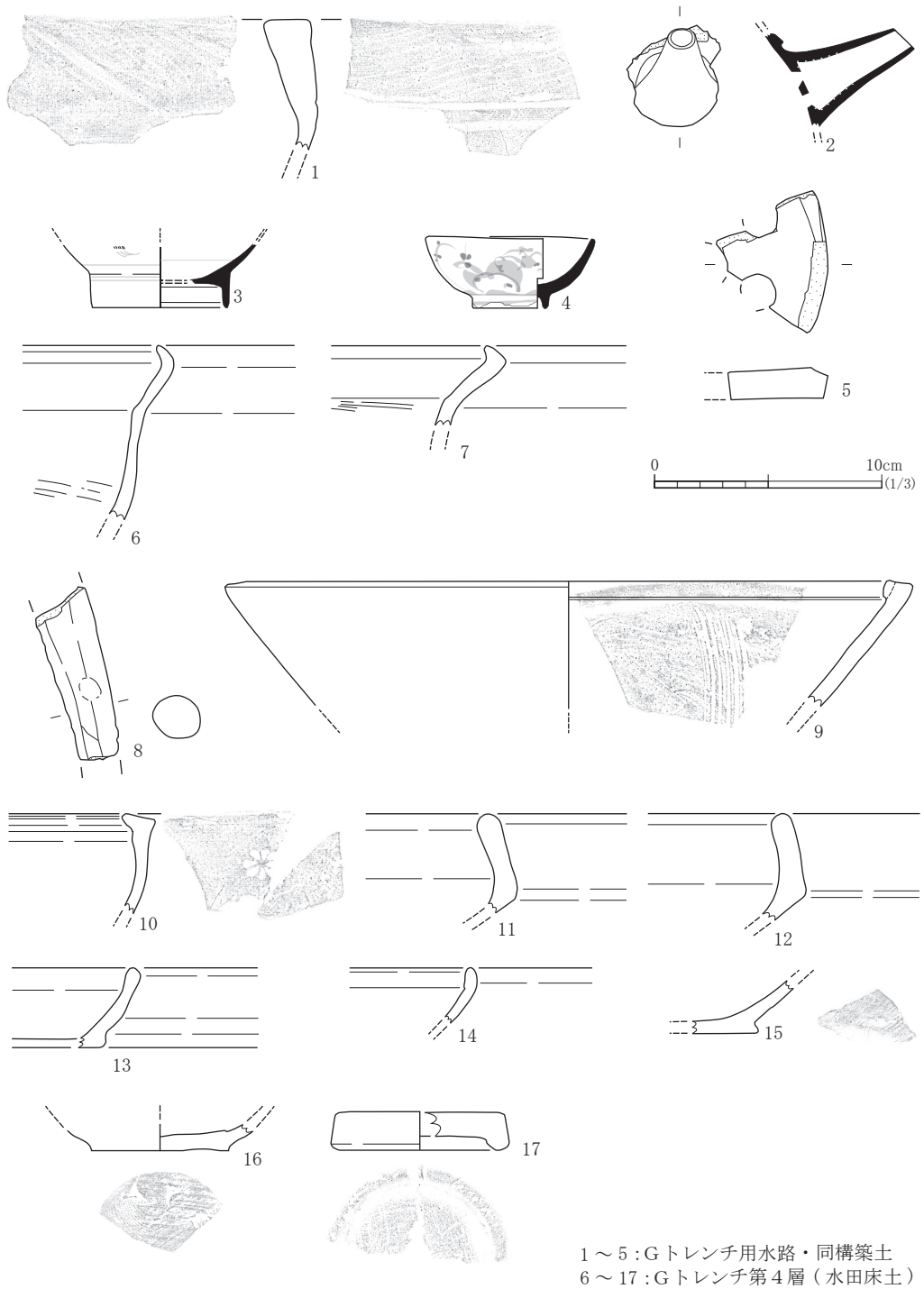
25・26はHトレンチ出土土器。25は第3～10層（水田床土）出土。産地不明の磁器碗胴部。亀甲状を呈し、灰釉を施釉する。18世紀後半以降。26は床面清掃時出土。肥前系染付皿の口縁部。外面に唐草文を描く。18世紀後半。

(2) 石器・石製品 (Fig.15, PL.11)

27・28はGトレンチ第3・4層出土。27は楔形石器。石質は黒色メノウ。28は赤色頁岩製の赤間硯片。29はGトレンチ第2層出土の剥片。石質はメノウ。以上の詳細はTab.5を参照されたい。他にGトレンチ第3・4層からは赤色砂質頁岩の剥片が出土している(PL.11)。

(3) 銅製品・銭貨 (Fig.15, PL.11～12)

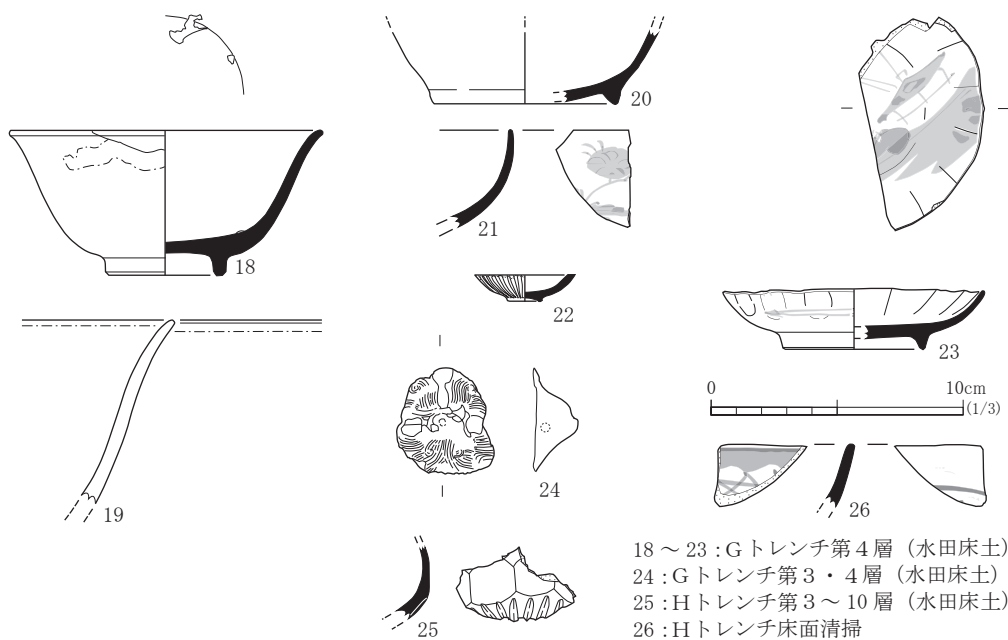
30・31は銅製の煙管。30はGトレンチ第4層出土の雁首。31はGトレンチ第3・4層出土



1～5：Gトレンチ用水路・同構築土
6～17：Gトレンチ第4層（水田床土）

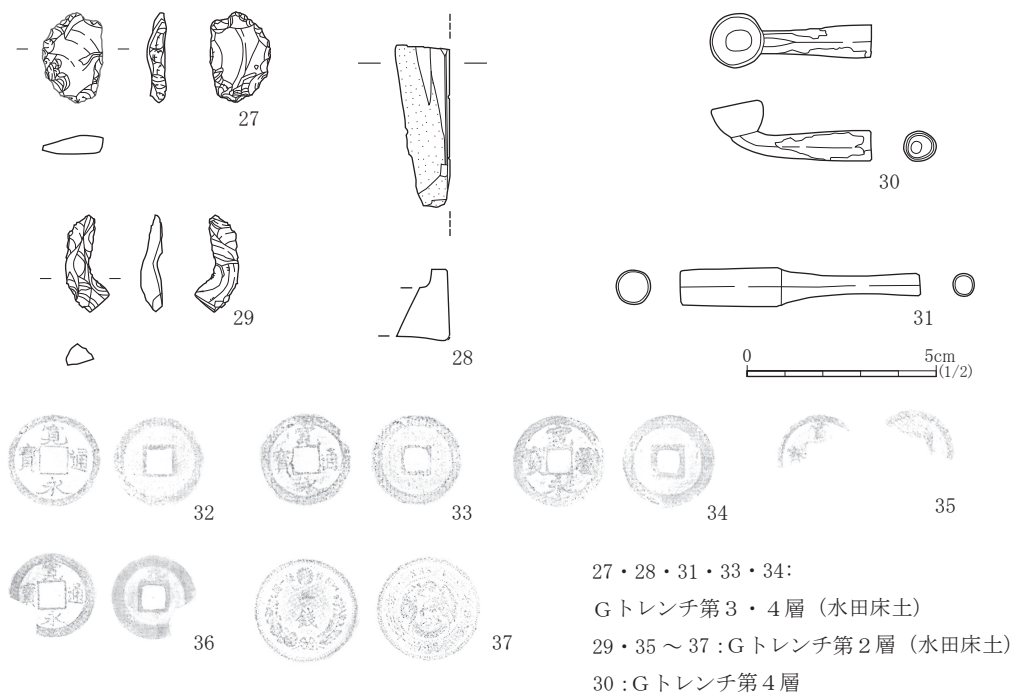
Fig.13 出土遺物実測図①(土器)

遺物



18～23 : Gトレンチ第4層 (水田床土)
 24 : Gトレンチ第3・4層 (水田床土)
 25 : Hトレンチ第3～10層 (水田床土)
 26 : Hトレンチ床面清掃

Fig.14 出土遺物実測図②(土器)



27・28・31・33・34 :
 Gトレンチ第3・4層 (水田床土)
 29・35～37 : Gトレンチ第2層 (水田床土)
 30 : Gトレンチ第4層

Fig.15 出土遺物実測図③(石器・金属器・銭貨)

の吸口。32～36はGトレンチ第2～4層出土の寛永通宝。欠損が多い35を除くと、34が古寛永で他は新寛永とみられる。37はGトレンチ第2層出土の竜一銭銅貨。以上の詳細はTab. 5を参照されたい。

4 小結

今回調査を行ったG・Hトレンチでは、水田化以前の堆積層からはほとんど遺物が出土しておらず、全体を通して古代以前の出土遺物は僅少であった。遺構は造成前の水田耕作に伴うものである。以上の状況はGトレンチの北側に位置する医学部体育館敷地においても確認されている²⁾。Gトレンチは医学部構内遺跡では過去最大の調査面積であり、用水路1条・水田暗渠2条・土坑3基を検出した。用水路は木や竹で補強されており、堆積と改修が繰り返されていたが、掘削時期は不明である。また、用水路の両側には通路があり、北側の一部では水田の区画を確認した。用水路の境に水田面の高さが異なることから、用水路は近世の開作時に遡る地割を反映している可能性がある。

水田床土（第3・4層）からは図化していないものを含めて、18世紀後半～19世紀の陶磁器類が多数出土している。真締川の旧河口の耕地化は寛政11（1799）年4月に許可された³⁾が、その直後から造成が開始されたことを裏付けるものであろう。

平成10年度から開始した宇部市土地区画整理事業に伴う発掘調査は今回の調査で終了となるが、今回の調査では地域開発史に関わる成果を得ることができた。

[注]

- 1) 山口大学埋蔵文化財資料館「宇部市土地区画整理事業（柳ヶ瀬丸河内線）に伴う発掘調査」「宇部市土地区画整理事業（柳ヶ瀬丸河内線・医学部西側特殊道路）に伴う発掘調査」（『山口大学構内遺跡調査研究年報XVIII』、2021年）
- 2) 山口大学埋蔵文化財資料館「宇部（小串構内）医学部体育館新営に伴う試掘調査」（『山口大学構内遺跡調査研究年報III』、1985年）
- 3) 小川国治「近世村落の成立と発展」（『宇部市史』通史編上巻、1992年）

出土遺物観察表

Tab.2 出土遺物観察表(土器)

法量()は復元値

遺物番号	出土地区・遺構	層位	器種	部位	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	色調 ①外面②内面	胎土	備考
1	Gトレンチ用水路	埋土・構築土	土師質土器 甕	口縁部				①②灰白色	0.5~3mmの砂粒を少量含む	佐野焼
2	Gトレンチ用水路	H-1断面第12層	陶器 土瓶	注口部				素地：暗褐色 釉：灰白色		
3	Gトレンチ用水路	埋土	磁器 碗	底部		(6.0)		素地：灰白色 釉：透明	精良	肥前
4	Gトレンチ用水路	埋土	磁器 碗	口縁~底部	7.4	3.2	3.2	釉：明オリープ灰白色		肥前系
5	Gトレンチ用水路	埋土	土師質土器 サナ				1.4	①②にぶい橙色	0.5~3mmの砂粒を少量含む	
6	Gトレンチ	第4層	瓦質土器 足鍋	口縁~胴部				①黒色 ②灰白色	0.5~2mmの砂粒を少量含む	
7	Gトレンチ	第4層	瓦質土器 足鍋	口縁部				①黒色 ②灰白色	0.5~1mmの砂粒を少量含む	
8	Gトレンチ	第4層	瓦質土器 足鍋	脚部				①黒褐色 ②黄灰色	0.5~3mmの砂粒を少量含む	
9	Gトレンチ	第4層	瓦質土器 播鉢	口縁~胴部	(30.2)			①灰黄褐色 ②灰白色	0.5~3mmの砂粒を含む	
10	Gトレンチ	第4層	土師質土器 鉢	口縁~胴部				①浅黄褐色 ②にぶい黄褐色	0.5~2mmの砂粒を含む	
11	Gトレンチ	第4層	土師質土器 焙烙	口縁~胴部				①褐色 ②にぶい黄褐色	0.5~3mmの砂粒を少量含む	12と同一か
12	Gトレンチ	第4層	土師質土器 焙烙	口縁~胴部				①にぶい黄褐色 ②にぶい褐色	0.5~3mmの砂粒を少量含む	11と同一か
13	Gトレンチ	第4層	瓦質土器 焙烙	口縁~底部				①灰白色 ②浅黄色	0.5~2mmの砂粒を含む	
14	Gトレンチ	第4層	瓦質土器 焙烙	口縁~胴部				①浅黄色 ②灰白色	0.5~2mmの砂粒を含む	
15	Gトレンチ	第4層	瓦質土器	底部				①②灰白色	0.5~2mmの砂粒を少量含む	
16	Gトレンチ	第4層	土師質土器	底部		(6.1)		①②にぶい黄褐色	0.5~1mmの砂粒を含む	
17	Gトレンチ	第4層	土師質土器 焼塩壺蓋	天井~口縁部				①②にぶい橙色	0.5~4mmの砂粒を少量含む	
18	Gトレンチ	第4層	陶器 碗	口縁~底部	(12.5)	(4.5)	5.8	素地：オリープ色 釉：浅黄色	精良	
19	Gトレンチ	第4層	陶器 鉢	口縁~胴部				素地：オリープ黄色 釉：灰白色	精良	萩焼
20	Gトレンチ	第4層	磁器 碗	胴~底部		(7.2)		素地：灰白色 釉：灰黄色	精良	
21	Gトレンチ	第4層	磁器 碗	口縁~胴部				素地：灰白色 釉：透明	精良	肥前系
22	Gトレンチ	第4層	磁器 紅皿	口縁~底部	4.0	1.2	1.1	素地：灰白色 釉：灰白色	精良	肥前系
23	Gトレンチ	第4層	磁器 皿	口縁~底部	(10.4)	(5.7)	2.45	素地：灰白色 釉：透明	精良	肥前系
24	Gトレンチ	第3・4層	瓦質土器 火鉢	把手か				①灰白色 ②浅黄色	精良	
25	Hトレンチ	第3~10層	磁器 碗	胴部				生地・釉： 灰白色	精良	
26	Hトレンチ 床面清掃		磁器 皿	口縁部				素地：灰白色 釉：透明	精良	肥前系

Tab.3 出土遺物観察表(石器)

遺物番号	出土地区・遺構	層位	器種	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	石質	備考
27	Gトレンチ	第3・4層	楔形石器	2.4	1.63	0.5	2.76	黒色メノウ	
28	Gトレンチ	第3・4層	硯	4.0	1.48	1.9	13.29	赤色頁岩	
29	Gトレンチ	第2層	剥片	2.58	0.97	0.54	1.13	メノウ	

Tab.4 出土遺物観察表(金属器・銭貨)

遺物 番号	出土地区・ 遺構	層 位	器 種	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	備 考
30	Gトレンチ	第4層	銅製 煙管	4.3			4.89	火皿径1.4cm 小口径0.8cm
31	Gトレンチ	第3・4層	銅製 煙管	6.4			7.57	先端部径1.0cm、吸口部径0.6cm
32	Gトレンチ	第4層	銅銭 「寛永通宝」	直径2.43	孔辺0.67		2.65	
33	Gトレンチ	第3・4層	銅銭 「寛永通宝」	直径2.43	孔辺0.62		2.55	
34	Gトレンチ	第3・4層	銅銭 「寛永通宝」	直径2.46	孔辺0.68		2.7	
35	Gトレンチ	第2層	銅銭 「寛永通宝」				0.76	
36	Gトレンチ	第2層	銅銭 「寛永通宝」	直径2.46	孔辺0.61		1.82	
37	Gトレンチ	第2層	竜一銭銅貨	直径2.8			6.68	摩滅が著しい